

破骨細胞へ分化させる系を用いた。50ng/mlのRANKLを作用させてから0, 24, 82時間後にsmall RNAを含むtotal RNAを回収し、*c-fos*, *Nfatc1*, *Trap*等の破骨細胞分化関連遺伝子の発現をPCRで定量し、使用した細胞株の性質を調べると同時に、マイクロアレイ解析によって、成熟miRNAの発現変動を調べた。また、Target ScanによってmiRNAの標的遺伝子を予測した。

結果：RANKLによって2倍以上変動した成熟miRNAは52種類あり、このうちmiR-210やmiR-378等は、破骨細胞分化に伴ってその発現が増加し、miR-223やmiR-342-3p等は減少を示した。またmiR-342-3pは、*Trap*と*Mitf*を標的の遺伝子としている可能性が予測された。

考察：多数のmiRNAが、破骨細胞分化を制御している可能性があると考えられた。

演題4. 本学予防歯科外来定期受診者の受診中断に関わる要因分析

○杉浦 剛, 岸 光男, 相澤 文恵,
阿部 晶子, 南 健太郎, 稲葉 大輔,
菊池 淑子*, 米満 正美

岩手医科大学歯学部口腔保健育成学講座
口腔保健学分野

岩手医科大学附属病院歯科医療センター
歯科衛生部*

目的：歯の喪失は定期的な機械的歯面清掃と口腔衛生指導により予防可能であることが報告されている。そこでデータマイニングの手法であるテキストマイニングおよび決定木分析を用いて定期歯科受診者の受診中断にかかわる要因分析を行った。

材料・方法：本学付属病院予防歯科外来にて定期歯科受診者106名を対象に定期歯科受診に対する感想および要望、満足度、口腔関連QOLについて質問紙調査を行った。口腔健康関連QOLの評価にはGOHAI (General Oral Health Assessment Index)を用いた。また、受診者のカルテの記載より住所、年齢、性別などを調べた。ついで1年後に受診継続している者(継続群75名)と6ヶ月以上受診を中断した者(中断群31名)に分類し、比較した。

結果：GOHAIの合計スコア、受診継続期間が中断群で有意に低かった($P < 0.01$)。次に継続群と中断群について決定木分析を行ったところ、GOHAI合計点が40点以下の者(11名)は82%(9名)が受診を中断していた。一方、感想文中に「安心」または「気持ちよい」と記述していた者は受診を継続する傾向がみられた。

考察：口腔の健康関連QOLと継続歯科受診との関連は、継続歯科受診している者は口腔の客観的健康状態が良好となり、それに伴い主観的健康状態も向上すると考えられた。また、定期歯科受診で受ける行為に対し、「安心」「気持ちよい」など肯定的に評価する者は受診を継続する傾向にあることが示された。

結論：本学予防歯科外来における定期歯科受診者で口腔関連QOLが低い者は定期歯科受診を中断してしまう傾向があり、定期歯科受診に対して「安心」または「気持ちよい」と感じている者は受診を継続する傾向にあると考えられた。

演題5. 重度歯周病患者に歯周治療を施して、HbA_{1c}が著しく改善した一症例

○佐々木大輔, 村井 治, 藤原 英明,
金澤 智美, 大川 義人, 八重柏 隆

岩手医科大学歯学部口腔機能保存学講座
歯周病学分野

目的：糖尿病と歯周病は炎症性サイトカインを介して相互に関連することが知られている。今回、我々は岩手医科大学附属病院糖尿病代謝内科を受診中の2型糖尿病患者で、重度歯周病の歯周治療を開始したところ、血糖値が著しく改善した症例を経験したので報告する。

症例：58歳の男性。4.6の動揺を主訴に来院した。1日4回のインスリン注射を受けている非喫煙者で、初診時のHbA_{1c}は11.5%であった。口腔内所見は全顎的に歯肉の発赤、腫脹が認められ、O'LearyのPlaque control record (PCR)は、44.8%、プロービング時の出血(BOP)率は55.6%、4mm以上の歯周ポケット保有率は58.3%であった。エックス線写真で全顎的に歯槽骨吸収2度から3度を認め、重度慢性歯周炎と診断した。一口腔単位の歯周治療を開始